

# 「安保夏成立」と昨年伝達

## 自衛隊統幕長、米軍幹部に

陸海空自衛隊の一体運用を担う統合幕僚監部（統幕）の河野克俊統幕長が昨年末の訪米時、安全保障関連法案について、今年夏までに成立する見通しだと米軍首脳に伝えていたとする資料を共産党の仁比聡平氏が二日の参院特別委員会で提示した。中谷元・防衛相は「いかなるものか承知していない」と内部文書であるかどうかの確認を避けた。

## 共産が内部資料指摘

仁比氏によると、資料は「と答えた。河野氏は一連の会談で、統幕が作成。河野氏が昨年十二月十七、十八両日の訪米で、デンプシー統合参謀本部議長ら米軍・国防総省幹部七人と会談した内容を記載している。当時は法案の作成に向けた自民、公明両党の与党協議が始まっていない段階だった。

河野氏は十二月十七日のオディエルノ陸軍参謀総長（当時）との会談で、集団的自衛権の行使容認を柱とする安保法案の見通しを問われ、直前の十四日に投票票された衆院選に触れ「与党の勝利により、来年夏までには終了する」と考えてい

及。中谷氏は資料は自衛隊が作成したと認めている。「ウラン弾輸送 米と協議せず」 防衛相が答弁撤回

は委員会後の会見で「自衛隊が暴走していることが裏付けられた」と述べた。共産党は仁比氏が示した資料とは別に、法案の成立を前提として新たな部隊運用などに関する資料を自衛隊が作成していたことも追

# 安保採決 18日期限

## 与党方針 60日ルール使わず

中谷元・防衛相は二日の安全保障関連法案に関する参院特別委員会で、他国軍支援で劣化ウラン弾の輸送はしないと米側と協議しているとした自らの説明が誤りだったとして撤回した。白真勲氏（民主）は「虚偽答弁だ」と反発した。中谷氏は八月十一日の特別委で、劣化ウラン弾について「運ばないということと相手側（米側）と協議している」と述べた。二日の質疑では「（米側と）法案の前身について包括的に議論はしたが、劣化ウラン弾については話してはいなかった」と述べた。岸田文雄外相は他国軍支援での自衛隊の核兵器輸送について、米政府に照会したところ「日本に核兵器の輸送を要請することはない」と、伝達されたと明らかにした。

与党は安全保障関連法案について、野党の修正要求に応じず、政府原案通りに参院で可決、成立させる構えだ。対案を提出した維新の党との修正合意は困難と判断。他の野党三党の修正案も条文に取り入れられない方針。「六十日ルール」による衆院再可決は見送り、十八日を事実上の期限とし、採決の時期を探る。安保法案に関する二日の参院特別委員会では、自民党の佐藤正久氏は維新の対案

について、集団的自衛権の行使を認めるのか、個別的自衛権の拡大なのか曖昧で「このまま成立させることは難しい」と批判した。維新は分裂不可避の状況になり、与党には修正協議に對し「樂觀的でない」（自民党の高村正彦副総裁）との見方が広がっている。次世代、元氣、改革の三党がまとめた修正案についても、与党は「集団的自衛権の行使に例外のない国会の事前承認を義務付ける」との要求は拒む方針。内容の一部を付帯決議に盛り込む可能性を検討している。付帯決議自体には法的拘束力はない。安倍晋三首相は二日、自民党の谷垣禎一幹事長と菅野会談し、野党との協議について「なかなか簡単ではない」と述べた。二日までの参院特別委の審議時間は約六十九時間で衆院（約百十六時間）の六割にとどまる。採決の前提となる公聴会の日程も見通せず、与党は衆院再可決が

9/3 日経新聞

可能になる「六十日ルール」が適用できる十四日より前の採決は困難とみている。公明党の西田実仁参院幹事長は二日の記者会見で「日程的に厳しくなっていることは、認めざるを得ない」と述べた。さらに、十九日から五連休、その後には首相の訪米が予定され、十八日までに採決しなければ、二十七日の会期末までの成立が厳しくなるとみている。（新開浩）